

安全データシート



SDS_PT-24103(1/4)

作成日 2022年4月1日

改訂日 2024年3月1日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名) アムテトラ

製造者情報

会社名 : 株式会社アムテック
住所 : 〒561-0854 大阪府豊中市稲津町3-1-1
連絡先 : Tel 06-6866-8508 Fax 06-6864-1446
担当部門: 開発グループ
緊急連絡先: Tel 06-6866-8508

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	危険有害性の分類に該当する情報なし	
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:粉塵)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分できない
	発がん性	区分できない
	特定標的臓器・単回曝露	区分1(呼吸器・全身毒性)
	環境有害性	水生環境有害性(急性)
水生環境有害性(慢性)		区分1

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	呼吸器、全身毒性の障害 水生生物に強い毒性

注意書き

安全対策

- 粉塵を吸入しないこと
- 取扱い中は飲食、喫煙などをしないこと
- 適切な保護具を使用すること(保護手袋、保護眼鏡など)
- 環境への放出を避けること

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

成分	CAS#	化審法	含有量
酸化亜鉛	1314-13-2	(1)-561	=<99%
その他	-	-	=<1%

4. 応急措置

眼に入った場合	直ちに流水で十分洗浄する。 痛みが取れない、過度に涙が出る、赤目が続く、等の場合は、専門医の診療を受ける。
皮膚に付着した場合	流水や石鹼水で十分に洗い流す。痛みや炎症等を起こした場合は、専門医の診療を受ける。
吸入した場合	咳き込む、息切れする等の症状がある場合は、直ちに新鮮な空気のある所に移動する。さらに、その症状が治まらない時は、専門医の診療を受ける

5. 火災の処置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂など ※棒状放水は飛散の可能性があるので使用しないこと ※消火作業の際には呼吸保護具などを着用する
-----	--

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置:

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項: 環境に放出してはならない

封じ込め及び浄化作用・機材:

漏出を止め、漏出分については飛散を抑えながら回収し、後で廃棄処理する

二次災害の防止: 周囲への散乱、排水溝などへの流入を防ぐ

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 「8. ばく漏防止及び保護措置」の記載の設備対策を行い、保護具を着用する

安全取扱い注意事項

取扱い時には飲食、喫煙をしないこと

屋外又は換気の良い区域でのみ使用する。粉塵を吸入しないこと

接触回避

「10.安定性及び反応性」を参照

保管

技術的対策 特別な対策は必要としない

安全な保管条件 容器を密封して冷乾所に保管する。施錠して保管すること

容器包装材料 包装、容器の規制はない

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
許容濃度	ACGIH 2013年版 TLV-TWA 2mg/m ³ (吸入性粉塵)、TLV-STEL 10mg/m ³ (吸入性粒子)
設備対策	貯蔵、取扱う作業場には局所排気設備を設ける
保護具	状況に応じて防塵マスク、保護眼鏡、保護手袋を着用する
衛生対策	取扱い後には手をよく洗うこと

9. 物理・化学的性質

物理的状态(形状、色、臭い)	白色固体、無臭
融点・凝固点	1975°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	昇華
引火点、燃焼性、自然発火性	不燃性
蒸気圧	情報なし
比重	5.78
溶解度	不溶性
分解温度	情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性	常温、常圧で安定
危険有害反応可能性	加熱すると、アルミニウムやマグネシウムの粉末、塩素化ゴムと激しく反応する
避けるべき条件	混接危険物との接触
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口 >5000mg/kg、rat(EU-RAR43:2004) より区分外とした
	経皮 >5000mg/kg、ウサギ(EPA Pesticide:1992)より区分外とした
	吸入(粉塵) >5.7mg/L(4hrs)、rat(EU-RAR43:2004)により JIS 分類による区分外とした
皮膚腐食性・刺激性	ウサギの経皮(耳)に 500mg/kg、24 時間閉塞適用で刺激性なし(EU-RAR43:2004)より区分外とした
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギを用いた3件の報告において、2件が極めて軽度の刺激、1件が無刺激(EU-RAR43:2004)の記載により区分外とした
特定標的臓器・全身毒性	
	単回ばく露 ヒトで酸化亜鉛微粉塵吸入による金属ヒューム熱の発症により呼吸器/全身性の症状が確認されていることにより区分1とした
	反復ばく露 情報が少ないため分類することができない

12. 環境影響情報

水生環境有害性

(急性) 藻類の72時間EC50が0.17mg/L(酸化亜鉛濃度換算値0.21mg/L)より、区分1とした

(慢性) 生物蓄積性は低い(BCF217:既存化学物質安全性点検データ)が、
金属化合物であり、水中での挙動が不明であるため区分1とした

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 関連法規、地方自治体の基準に従って認可を受けた業者に委託して処理する

汚染容器及び包装 内容物を完全に除去して清浄にした上でリサイクルするか廃棄物処理の認可を受けた業者に委託して廃棄する

14. 輸送上の注意

国際規制

国連危険有害性クラス Class 9

国連番号 3077

国連品名 ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE ,SOLID,N.O.S.

容器等級 III

非該当数量 組み合わせ容器の内装容器もしくは単一容器に5Lもしくは5Kg 以下

国内規制

海洋規制情報 船舶安全法上の規定に従う

航空規制情報 航空法の規定に従う

陸上規制情報 該当しない

特別安全対策

直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ防止等を対策する

15. 適用法令

労働安全衛生法 名称等を表示すべき危険有害物
(法第 57 条の 2、施行令第 18 条別表第 9)

大気汚染防止法 リスクアセスメントをすべき危険有害物
(法第 57 条の3)

水質汚濁防止法 指定物質

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) 非該当

16. その他

この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。
危険・有害性情報は現時点で入手可能な資料・データ等に基づいて作成しております。